

# 謝辞 八代京子先生

—お世話になりました。学部も私も—

経済学部

佐藤 政則

八代先生は、1991年度（平成3）にご着任ですから、あれからもう20年。ほんとうに早い。あの頃、こういう日が来るとは全く考えもしないで、毎日のように、私は飲んだくれていましたね。

外国語学部助教授として筑波大学国際関係学類から着任された八代先生は、翌1992年度の国際経済学部発足を控えて招聘されたお一人です。1991年度という1年間は、外国語学部教授会に出席しますが、同時に、小松雅雄先生のもとで国際経済学部移籍予定の20名位のメンバーが「新学部運営委員会」を開き、様々な準備をしていました。だから決してのんびりした1年間ではなく、むしろ随分と忙しい日々でした。夏休みに手分けして高校訪問を行い、夏過ぎには学部執行部が決まり、当時の文部省の認可が12月において、そこから正式な学生募集でした。年明けの1月から3月までに、外国語学部の先生方にお手伝い頂き、全ての入試をやったことになります。1号棟がまだ使用できませんでしたので、2月入試は幾つかの会場に分かれて実施されましたが、たしか八代先生は、津田沼会場の責任者だったと思います。

学生募集と入試はなんとかまりましたが、肝心の教育内容についての具体的な詰めは、いろいろな理由で、必ずしも十分でなかったと思います。このため初年度から学生と向き合う、八代先生を含めた1年次教育の先生方にはかなりのご負担を強いることになりました。

八代先生は、国際経済学部の最初の学生担当教務副主任です。ブーブー言いながらも、浦山重郎先生（学生担当教務主任）とご一緒に学生対応に務めておられました。なにしろ学生は、完成年度まで毎年1学年ずつ増えていくのですから、変化がありすぎてパターンが作れず、学生課とともに難渋と辛抱の日々だったはずです。それに加えて、即戦力と期待された浦山先生が骨折なにかで着任が遅れ（？）、スタート時の学生担当はすべて八代先生が担う、という過酷な旅立ちでした。

当時の教授会メンバーの出身構成は、たしかモラロジー研究所・外国語学部、大学界、実業界・官界、各々1/3位だったと思います。完成年度までの4

年間で全員が揃うわけですから毎年が新鮮すぎて、ほんとうに意思疎通が大変でした。それに両法人や大学の事務部門も普通の大学運営に全く未熟で、一生懸命に務めてくださっているのですが、永安幸正教務担当教務主任の業火に油を注ぐような局面もしばしばありました。その間で、右往左往する私たちでした。

八代先生のご専門は英語教育、なかんずく異文化コミュニケーションですから、国際経済学部には最適な人材で、当初から手堅い谷口茂先生とともに学部の英語教育について責任ある立場を担っておられました。他方で、経済学・経営学の専門領域における英語教育も学部が打ち出した特色でした。両者各々における同一科目間の教育内容の水準をどうするのか、そもそも両者をどのように連携させていくのか、走り始めて直面した難しい問題の連続でした。そのなかで戸惑う学部1期の学生たちでしたが、よく付いてきていたと思います。さすがに3000名弱のなかから選ばれただけのことはあり、手ごたえのある連中でした。学部の英語教育の具体的なあり方が暗中模索でしたから、ネイティブの先生方との日々のコミュニケーションも、さぞかし大変だったろうと思います。

あれから20年。本当にいろいろなことがありました。かなり落ち込む時もありましたが、学部も大学も随分と成長したと思います。そのなかで八代先生をお送りする 때가やってきました。学部の教育と運営に対する先生の刻印、なかでも学部発足時に頂戴した先生のご尽力は、学部の発展にとって貴重な礎石となっています。ご退職後も、教科書のご執筆や各種研修の講師でお忙しいと伺っております。どうぞ、ご健康に充分留意されて、引き続き学部と大学の展開を見守ってください。

八代先生、公私ともども、ほんとうにお世話になりました。心よりお礼申し上げます。また飲みましょうね、阿部壮太さんも誘って。



八代京子教授 略歴

昭和 20 年 9 月 24 日生

学歴

昭和 36 年 4 月 1 日	東京都立豊多摩高等学校入学 (2 年)
昭和 38 年 9 月	米国カリフォルニア州 Garden Grove High School 入学 (1 年)
昭和 39 年 6 月	米国カリフォルニア州 Garden Grove High School 卒業
昭和 39 年 9 月	米国 California State College at Long Beach 入学 (1 年)
昭和 40 年 9 月	国際基督教大学教養学部入学 (4 年)
昭和 44 年 3 月	国際基督教大学教養学部卒業
昭和 44 年 4 月 1 日	国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻修士課程入学 (4 年)
昭和 48 年 3 月 31 日	国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻修士課程終了
昭和 60 年 9 月	国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻博士課程後期入学 (2 年)
昭和 62 年 9 月	国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻博士課程後期単位修得後中退

## 職歴

昭和 43 年 4 月	サイマル・インターナショナル株式会社 同時通訳者 (4 年)
昭和 45 年 3 月	Japan Missionary Language Institute 日本語教師 (3 年)
昭和 56 年 4 月 1 日	国際基督教大学高等学校講師 (英語) (1 年)
昭和 57 年 4 月	主婦 (OECD 日本政府代表部一等書記官として赴任の夫とパリ在住 3 年)
昭和 60 年 12 月	国際基督教大学助手 (教養学部) (2 年)
昭和 62 年 10 月 1 日	筑波大学講師 (現代語現代文化学系国際関係学類)
平成 3 年 4 月 1 日	麗澤大学助教授 (外国語学部)
平成 8 年 4 月 1 日	麗澤大学教授 (経済学部) 現在に至る
平成 18 年 4 月 1 日	麗澤大学大学院教授 (言語教育研究科英語専攻課程) 現在に至る

## 主な所属学会及び社会的活動等

異文化コミュニケーション学会監査役 シニア・フェロー

異文化間教育学会理事

International Academy for Intercultural Research フェロー

株式会社海外放送センター 多様性対応コミュニケーション研修顧問 講師

## 八代京子教授 主要業績一覧

### 著書

- 『日本におけるバイリンガリズム』、ジョン・マーハとの共著、研究社、1991年11月
- 『Study Abroad』、ジョーン・ハウデンとの共著、研究社、1993年11月
- 『異文化理解の教育とトレーニング』、単著、『異文化理解とコミュニケーション2』、本名信行他との共編著、三修社、1994年9月
- 『Multilingual Japan』、ジョン・マーハとの共著、Multilingual Matters、1995年
- 『異文化トレーニング』、町恵理子、小池浩子、吉田友子との共著、三修社、1998年2月
- 『異文化コミュニケーション・ワークブック』、荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美との共著、三修社、2001年9月
- 『多文化社会の人間関係力』、山本喜久江との共著、三修社、2006年8月
- 『Byond Boundaries』、共著、桐原書店、2008年2月
- 『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』、世良時子との共著、三修社、2010年10月
- 『異文化コミュニケーションと国際理解』、単著、『国際社会を読み解く教養』、麗澤大学国際社会・国際教養研究グループ編著、2011年3月

### 主な論文等

- 『国際コミュニケーションの基本』、島岡丘との共著、『現代英語教育』、平成2年4月から平成3年3月まで連載。毎回2頁
- 『生活の中の異文化コミュニケーション』、単著、『現代英語教育』、平成3年4月から平成4年3月まで連載。毎回2頁
- 『異文化コミュニケーションについての12のダイアログ』、ワシレウスキー・ジャクリンとの共著、『現代英語教育』、平成4年4月から平成5年3月まで連載。毎回2頁
- 『Team Teaching Incidents: Intercultural Exercises』、単著、『The Language Teacher』 Vol. XVI: 12、平成4年12月
- 『Intercultural Exercises in Preparation for Team Teaching』、単著、『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』 Volume 1、平成5年3月
- 『Critical Incident Exercises for Japanese Students Going Abroad』、単著、『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』 Volume 2, Number 1、平成6年3月
- 『Predeparture Training: Critical Incident Exercises』、単著、『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』 Volume 2, Number 2、平成6年9月
- 『CSR 関連企業研修：アンケート調査結果報告』、吉田友子、鈴木有香との共著、

- 『麗澤学際ジャーナル』14巻2号、平成18年3月
- 「国際理解と異文化コミュニケーション」、単著、『モラロジー生涯学習』、平成19年9月、12月、平成20年3月、3回連載。毎回4頁
- 「Explaining Employee Participation in and Evaluation of CSR-related Training Programs from an Intercultural Perspective」, Co-authored with Tomoko Yoshida, Yuka Suzuki, 『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』 Vol. 15, No. 2, September 2007.
- 「企業の求める異文化コミュニケーション能力：フォーカス・グループインタビュー調査から」、吉田友子、鈴木有香との共著、『2006年度研究活動報告書：文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業部学術フロンティア・行動中心複言語学習プロジェクト』、慶応義塾大学、平成20年3月
- 「A Comparative Study of Japanese and Multinational Corporate Expatriate Training」, Renee Renjel との共著, 『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』 Vol. 19, No. 1, 2011.

#### 主な発表・研修

- 「留学前セミナー：目的確認とICAPS」、単、平成元年7月から平成21年7月、毎年2回、麗澤大学国際交流センター
- 「異文化疑似体験学習・バーニング」、単、平成元年7月、国立オリンピック記念青少年総合センター・企画
- 「異文化疑似体験学習・バーニング」、単、平成元年11月、電気通信大学
- 「企業文化移転のための企業内コミュニケーション」、単、平成14年6月、異文化コミュニケーション学会年次大会
- 「留学前セミナー：バーニングとICAPSを使って」、単、平成19年7月、麗澤大学国際交流センター
- 「企業が求める異文化コミュニケーション能力」、単、平成19年9月、異文化コミュニケーション学会年次大会
- 「異文化間コミュニケーション・ワークショップ」、単、平成19年12月、御茶ノ水女子大学大学院教育イニシアティブ
- 「異文化体験ワークショップ」、単、平成20年5月、武蔵野市国際交流協会
- 「How Globalization Has Shaped the Definition of Intercultural Communication Skills Required by Japanese Business People」、平成20年10月、SIETAR Global Conference in Spain
- 「インドネシアEPA介護福祉士候補者異文化コミュニケーション研修」、単、平成20年9月、10月、11月、財団法人海外技術者研修協会
- 「交渉術」、単、平成22年9月、社団法人千葉県看護協会、訪問看護ステーションの経営セミナー
- 「インドネシアEPA介護福祉士候補者異文化コミュニケーション研修」、単、平成22年9月、10月、11月、財団法人海外技術者研修協会